

中国語で観光マップを

名古屋中心 四川大生ら製作中



名古屋学芸大の学生(右端)から大須観音の説明を受ける四川大大学院の学生たち=中区の大須観音で

来日した中国四川省の学生たちが、名古屋を中心にした中国語の観光マップ作りを進めている。中国では知名度がいまひとつの名古屋の魅力を発信しようとして、名古屋学芸大(日進市)の学生たちが観光地を案内するなど協力した。

中国の学生は四川大

大学院デザイン学科の学生十五人。二十日から二十七日までの日程で、名古屋城や徳川美術館を巡ったほか、岐阜県の白川郷や京都などに足を運ばした。

今度は逆に名古屋のマップを中国語で作ることになり、四川大の学生が名古屋を訪れた。二十五日は中区の大須商店街取材し、大須観音の写真を撮ったり、バスや地下鉄の乗り方をメモしたりし

た。

グラフィックデザインを学ぶ四川大大学院一年の岡以恒さん(左)は「日本の駅は乗り場などを示すマークやサインが多く、日本語が読めなくても利用しやすい。勉強になった」と感心した様子だった。

中国の学生は商店街や日本の物にも興味を示し、「急須はどこで買えるのか」と質問し、実際に浴衣を買った人もいた。もともと中国には興味があっ

たという名学芸大三年の森千尋さん(右)は「以前、反目アモの映像を見て、私たちは嫌われているのではと思っていただけ、実はみんな日本が大好きだった。いつか中国に行ってみよう」と笑顔で話した。

中国の学生が帰国した後はメールでやりとりしながら、マップの細部を詰める。十月中に完成させ、中国の旅行会社に配る予定だ。

(堀井聡子)